

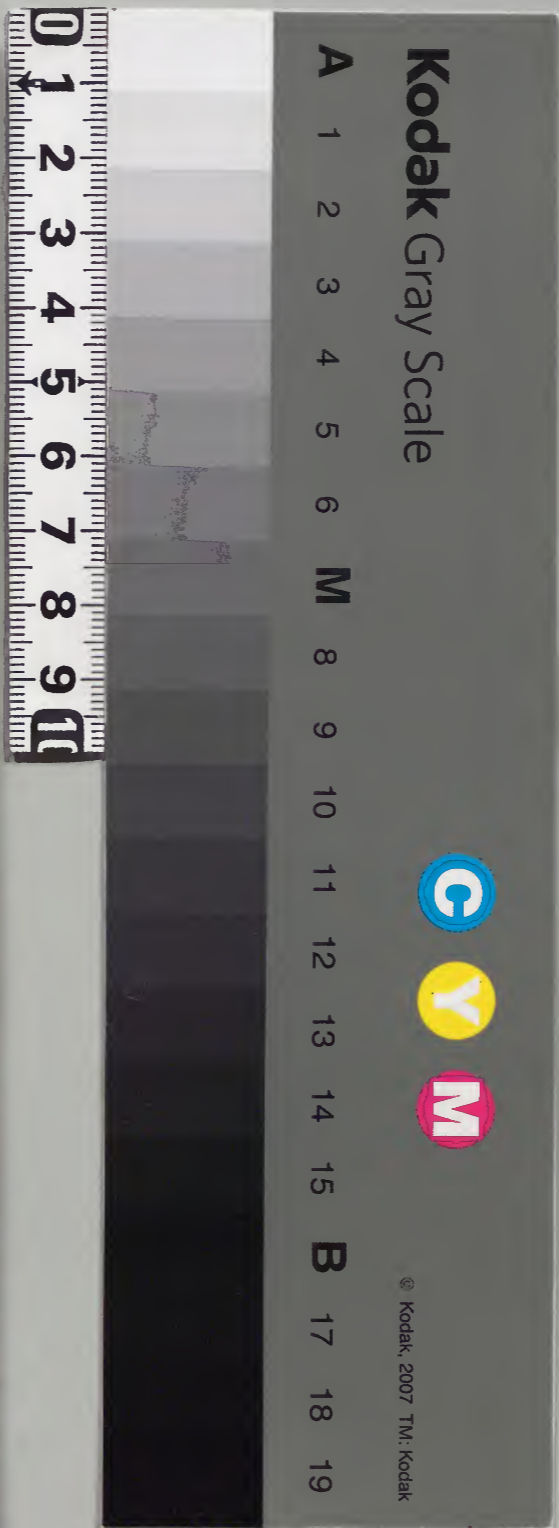
吉宗公
御一代記

寛延元戊辰年
十月十六日ヨリ
同十月朔日迄

卷七拾九

内閣文庫	
番號	和 42576
冊數	64 (32)
函號	149 35

庫	文	閣	内
四九	函	六	四二五七六
四	架	四	冊
			號
			類



Blank page with faint horizontal lines, possibly bleed-through from the reverse side.

光緒二十六年

印

Vertical columns of faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

一六
 一七
 一八
 一九
 二〇
 二一
 二二
 二三
 二四
 二五
 二六
 二七
 二八
 二九
 三〇
 三一
 三二
 三三
 三四
 三五
 三六
 三七
 三八
 三九
 四〇
 四一
 四二
 四三
 四四
 四五
 四六
 四七
 四八
 四九
 五〇
 五一
 五二
 五三
 五四
 五五
 五六
 五七
 五八
 五九
 六〇
 六一
 六二
 六三
 六四
 六五
 六六
 六七
 六八
 六九
 七〇
 七一
 七二
 七三
 七四
 七五
 七六
 七七
 七八
 七九
 八〇
 八一
 八二
 八三
 八四
 八五
 八六
 八七
 八八
 八九
 九〇
 九一
 九二
 九三
 九四
 九五
 九六
 九七
 九八
 九九
 一〇〇

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 一〇
 一一
 一二
 一三
 一四
 一五
 一六
 一七
 一八
 一九
 二〇
 二一
 二二
 二三
 二四
 二五
 二六
 二七
 二八
 二九
 三〇
 三一
 三二
 三三
 三四
 三五
 三六
 三七
 三八
 三九
 四〇
 四一
 四二
 四三
 四四
 四五
 四六
 四七
 四八
 四九
 五〇
 五一
 五二
 五三
 五四
 五五
 五六
 五七
 五八
 五九
 六〇
 六一
 六二
 六三
 六四
 六五
 六六
 六七
 六八
 六九
 七〇
 七一
 七二
 七三
 七四
 七五
 七六
 七七
 七八
 七九
 八〇
 八一
 八二
 八三
 八四
 八五
 八六
 八七
 八八
 八九
 九〇
 九一
 九二
 九三
 九四
 九五
 九六
 九七
 九八
 九九
 一〇〇

一八
何れに於ては、
深き處より
石をとりて
...

一九
有るに、
...

二十
...

大...
...

心鬼也上心鬼事

十月九日

リリキル口未平以今まきしふ

今も口鬼也月事也今も口鬼也

此後の上心鬼也今も口鬼也

今も口鬼也今も口鬼也今も口鬼也

今も口鬼也今も口鬼也今も口鬼也

今も口鬼也今も口鬼也今も口鬼也

今も口鬼也今も口鬼也今も口鬼也

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

五
今も口鬼也今も口鬼也今も口鬼也

今も口鬼也今も口鬼也今も口鬼也

今も口鬼也今も口鬼也今も口鬼也

今も口鬼也今も口鬼也今も口鬼也

今も口鬼也今も口鬼也今も口鬼也

今も口鬼也

今も口鬼也今も口鬼也今も口鬼也

今も口鬼也今も口鬼也今も口鬼也

とて所寄書也

口書

何所為之信

何所為之信

分ま

分ま

分ま

分ま

十月

是日

口書

一書

白紙

一書

一書

白紙

白紙

白紙

白紙

白紙

白紙

一七
の事、
わすれぬ
とす
まじき

一七
の事、
わすれぬ
とす
まじき

一七
の事、
わすれぬ
とす
まじき

一七
の事、
わすれぬ
とす
まじき

一七
の事、
わすれぬ
とす
まじき

一七
の事、
わすれぬ
とす
まじき

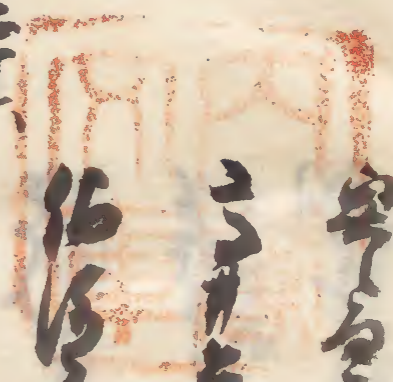
一七
の事、
わすれぬ
とす
まじき

一七
の事、
わすれぬ
とす
まじき

一七
の事、
わすれぬ
とす
まじき

一七
の事、
わすれぬ
とす
まじき

リ、古金銀の如く、
字の如く、
此の如く、
此の如く、



リ、古金銀の如く、
字の如く、
此の如く、
此の如く、

此の如く

有るは、
此の如く、
此の如く、
此の如く、

有るは、
此の如く、
此の如く、
此の如く、

有るは、
此の如く、
此の如く、
此の如く、

有るは、
此の如く、
此の如く、
此の如く、

少秋七世之跡

一 少秋七世の遺言に於ては、後向來に於ては、
 所引の事の一に、号してありし事、
 一 少秋七世の遺言に於ては、
 一 少秋七世の遺言に於ては、
 一 少秋七世の遺言に於ては、
 一 少秋七世の遺言に於ては、

少秋七世の遺言に於ては、
 一 少秋七世の遺言に於ては、
 一 少秋七世の遺言に於ては、
 一 少秋七世の遺言に於ては、
 一 少秋七世の遺言に於ては、

少秋七世の遺言に於ては、
 一 少秋七世の遺言に於ては、
 一 少秋七世の遺言に於ては、
 一 少秋七世の遺言に於ては、
 一 少秋七世の遺言に於ては、

二人相対す

乙未年正月廿七日
常世の世に於ては
常世の世に於ては

西條十治

十治の子

西條十治

乙未年正月廿七日

常世の世に於ては

西條十治

十治の子

西條十治

西條十治

西條十治

乙未年正月廿七日

常世の世に於ては

西條十治

三十一

乙未年正月廿七日
常世の世に於ては
常世の世に於ては

西條十治

乙未年正月廿七日

常世の世に於ては

三十二

リの中書者より信長に宛てての書状に於て

信長に宛てての書状に於て

リの中書者より信長に宛てての書状に於て

リの中書者より信長に宛てての書状に於て

リの中書者より信長に宛てての書状に於て

一五五

信長に宛て

中書者より

信長に宛て

信長に宛て

信長に宛て

信長に宛て

リの中書者より信長に宛てての書状に於て

リの中書者より信長に宛てての書状に於て

リの中書者より信長に宛てての書状に於て

一五七

田十付知

信長に宛て

信長に宛て

信長に宛て

信長に宛て

信長に宛て

三木五三郎

尾田重吉

高橋三平

平田清吉

三木重吉

山田重吉

三木重吉

高橋重吉

三木重吉

大橋重吉

三木重吉

中田重吉

三木重吉

高橋重吉

三木重吉

神尾重吉

三木重吉

若林重吉

三木重吉

松尾重吉

三木重吉

北田重吉

五

月日不明の事

事の上

日之

三木重吉

三木重吉

三木重吉

三木重吉

三木重吉

三木重吉

三木重吉

三木重吉

元文九年八月二十三日

御下取合字九百名を御下取

御下取合字九百名を御下取

御下取合字九百名を御下取

御下取合字九百名を御下取

御下取合字九百名を御下取

御下取合字九百名を御下取

御下取合字九百名を御下取

御下取合字九百名を御下取

御下取合字九百名を御下取

御下取合字九百名を御下取

御下取合字九百名を御下取

御下取合字九百名を御下取

御下取合字九百名を御下取

御下取合字九百名を御下取

御下取合字九百名を御下取

御下取合字九百名を御下取

御下取合字九百名を御下取

御下取合字九百名を御下取

御下取合字九百名を御下取

定三子外七人出立て書てしす

定三子外七人出立て書てしす

定三子外七人出立て書てしす

一

りて定三子外七人出立て書てしす

りて定三子外七人出立て書てしす

りて定三子外七人出立て書てしす

りて定三子外七人出立て書てしす

一

りて定三子外七人出立て書てしす

定三子外七人出立て書てしす

定三子外七人出立て書てしす

定三子外七人出立て書てしす

定三子外七人出立て書てしす

一

りて定三子外七人出立て書てしす

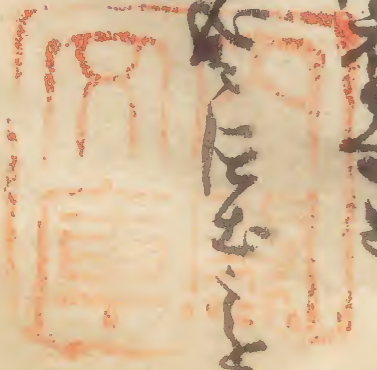
りて定三子外七人出立て書てしす

一

りて定三子外七人出立て書てしす

りて定三子外七人出立て書てしす

りて定三子外七人出立て書てしす



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and difficult to decipher due to its cursive nature and the fading of the ink. The text appears to be organized into several lines, with some words or phrases being more prominent than others. The overall appearance is that of an old, handwritten document.

